

泰阜村誌 下巻 目次

口 絵

上巻に掲載のもの

第一編 自然
第二編 原始・古代
第三編 中世
第四編 近世

第五編 近代

第一章 維新前後…………… 2

第一節 地域の情勢…………… 2

一 郷夫の出勤 2 二 白川藩の備人足 3 三 偽勅事件 4

四 助郷の勤仕 4

第二節 大政奉還と王政復古…………… 5

一 幕領および諸藩の帰属と新県の設置 5 二 制令の公布 7

第三節 騒擾と窮民の救済…………… 12

第二章 自治行政…………… 15

第一節	伊那県の治政	15
一	伊那県の設置	15
二	行政区(戸籍区)の設置	15
三	戸籍の制定	16
四	行政一般	16
第二節	筑摩県の治政	19
一	筑摩県の設置と行政区	19
二	県の施政	22
三	諸制度の確立と産業振興	23
第三節	旧小村の合併	26
一	小村の合併問題	26
二	泰阜村の誕生	34
第四節	新村泰阜村	38
一	行政機構	38
二	県の併合と村の行政	41
三	村の職制	43
四	村会の開設	44
五	学区の設定	45
六	新村の情勢	47
第五節	町村制による泰阜村	51
一	行政組織	51
二	議会	53
三	行政区の設置	55
四	行政区の変更	56
五	土地の移管	57
六	勸業の推進	57
七	学区の復設と諸施策	59
八	伝染病対策	62
九	幹線道路開さく	62
十	組合の創設	63
十一	村内情勢	64
第六節	大正時代	67
一	地方改良施策	67
二	諸制度の改正	68
三	村内情勢	73

第七節 昭和初期……………75

- 一 鉄道の誘致 75
- 二 泰阜病院の開設 76
- 三 農村不況対策 77
- 四 天竜川水力発電対策 78
- 五 満州事変(上海、熱河作戦) 79
- 六 行政区の増設 79
- 七 官林払い下げ 79
- 八 森林組合の創設 80
- 九 満州開拓移民 80
- 十 村内情勢 80

第八節 戦中……………82

- 一 日中戦争(太平洋戦争) 82
- 二 経済更生計画とその実行 83
- 三 分村移民の実施 85
- 四 無医村対策と県立診療所の誘致 88
- 五 米川発電所の建設 89
- 六 産業組合の設立 89
- 七 行政区の増設 89
- 八 新体制の確立 90
- 九 戦時下の行政改革 93
- 十 学区制の廃止 94
- 十一 物資の増産と供出 95
- 十二 戦時下の諸活動 97
- 十三 戦時下の生活 101
- 十四 戦時下の保健制度 108
- 十五 村内情勢 108

第九節 終戦と新生期……………111

- 一 終戦の混乱 111
- 二 占領政策 112
- 三 戦争犠牲者の援護 113
- 四 新学制と教育振興 113
- 五 公民館の設立と社会教育 114
- 六 合同庁舎の焼失と対策 115
- 七 農業団体および農業機関の設置 116
- 八 消防団の設置 116
- 九 国内開拓の推進 116
- 十 国民健康保険の公営化 117
- 十一 発電事業の再開 117

十二 村内情勢 117

第十節 平和条約の締結と村の自立…………… 118

- 一 村の財政 118
- 二 産業振興 119
- 三 自主教育の振興 120
- 四 戦争犠牲者の慰霊 121
- 五 道路改良とバスの誘致 121
- 六 村の観光開発 122
- 七 村内情勢 122

第十一節 町村合併問題と村内体制の確立…………… 125

- 一 地域の合併問題 125
- 二 村内体制の確立 126
- 三 災害対策 128
- 四 財政の窮迫 131
- 五 財政再建 132
- 六 村内情勢 135

第十二節 過疎対策…………… 137

- 一 振興計画 137
- 二 村内情勢 141

第三章 行政機構と運営…………… 145

第一節 行政機関…………… 145

- 一 県治下における村の行政者 145
- 二 新町村制による行政者 149
- 三 各期の役場庁舎 152

第二節 村（議）会…………… 155

- 一 町村会法による村会 155
- 二 新町村制による村会 156
- 三 新自治法による村議会 157
- 四 主要なる議決事件 158
- 五 議員名簿 160

第三節 学区会議員…………… 164

一	学区会の開設	164
第四節	常設委員(会)	167
一	村の任命による委員	167
二	法による委員会	168
第五節	区制(耕地)と部落	169
一	耕地および区の設置	169
二	二区の変遷	171
三	部落会	173
四	区、部落会の業務	173
五	組(組合)	175
第六節	村の人口	176
一	人口の動態	176
二	人口統計	177
第四章	教育	181
第一節	学校の創設	181
一	筑摩県による学校の設置	181
二	筑摩県分校の概要	183
第二節	学制による学校設置	186
一	学校の設立	186
二	桜基小校	191
三	島元小校	193
四	福山小校	196
五	統合桜基学校	199
第三節	教育令による教育	201
一	学校設置と経営	201
二	小学校教則	205
三	支校の開設	208
四	学務委員	208
五	萬場学校	209
六	南山学校	212

第四節	小学校令による教育……………	217
一	一村一校の学校編成……………	218
二	泰阜尋常小学校(本校支校制)……………	220
第五節	学区の復設と学校……………	227
一	学区の復設と学校設置……………	227
二	学区会の開設……………	230
三	南山尋常小学校……………	230
四	大南山尋常小学校……………	234
第六節	学校教育の振興……………	237
一	高等科小学校の設置……………	237
二	義務教育年限の延長と教科改訂……………	238
三	教員講習生に対する補助……………	238
四	泰阜尋常高等小学校……………	239
五	南山尋常高等小学校……………	245
六	学区の廃止……………	250
第七節	国民学校令による教育……………	252
一	学校の設置……………	252
二	戦時下の教育活動……………	253
三	泰阜北国民学校……………	254
四	泰阜南国民学校……………	257
五	終戦と学校教育……………	259
第八節	実業教育……………	260
一	農工補習学校の教育……………	260
二	実業補習学校の教育……………	261
三	泰阜農工補習学校(泰阜実業補習学校)……………	264
四	南山農工補習学校(南山実業補習学校)……………	265
第九節	青少年教育……………	267
一	青年訓練所(泰阜・南山青年訓練所)……………	267
二	青年学校……………	270
第十節	旧制時代の学校変遷……………	276

一 学区の設置とその変遷 276
二 学校の変遷 280

第十一節 新学制による教育……………280

- 一 新教育制度 280
- 二 教育行政機関の概要 281
- 三 泰阜村教育委員会 282
- 四 学校教育法による教育課程 285
- 五 新制中学校の建設 286
- 六 学校美術館 289
- 七 学校施設の充実 296
- 八 就学前教育 304
- 九 学校給食の実施 305
- 十 中国帰国子女教育 307
- 十一 学校PTA 310
- 十二 家庭訪問指導(各校共通) 312
- 十三 就職指導(南北中学校共通) 312
- 十四 南北交歓会(各校共通) 314
- 十五 泰阜北小学校 315
- 十六 泰阜北中学校 321
- 十七 泰阜南小学校 324
- 十八 泰阜南中学校 330
- 十九 栃城分校 334
- 二十 川端分校 337

第十二節 社会教育……………343

- 一 青年学級 343
- 二 家庭教育学級 347

第五章 兵 事……………349

第一節 兵 役……………349

- 一 徴兵検査 349
- 二 兵 籍 351
- 三 召 集 351
- 四 簡閲点呼 352
- 五 入退營時の送迎 352
- 六 馬匹検査 353

第二節 従 軍……………353

- 一 日清戦役(明治二十七年、八年) 353
- 二 日露戦役(明治三十七、八年) 354

三 日独戦争	354
四 満州・上海事変(昭和六、七年)	354
五 日中戦争(昭和十二年～十六年)	355
六 太平洋戦争(昭和十六年～二十年)	355
七 戦没者	356

第三節 兵事諸団体	377
-----------	-----

一 軍人(兵役)優待会	377
二 軍人後援会、銃後奉公会	380
三 軍人分会	381

第六章 警察と消防	383
-----------	-----

第一節 警察	383
--------	-----

第二節 消防	387
--------	-----

第七章 各種団体	400
----------	-----

第一節 少年会	400
---------	-----

一 少年会	400
二 青少年会	401
三 子供会	402

第二節 青年会	403
---------	-----

一 青年会	403
二 泰阜青年会(団)	403
三 戦後の青年会(団)	405

第三節 婦人会	406
---------	-----

一 愛国婦人会、国防婦人会、大日本婦人会	406
二 泰阜婦人会	407

第四節 壮年団	409
---------	-----

一 泰阜村翼賛壮年団 409

二 壮年団 409

第五節 老人クラブ

老人クラブ…………… 410

第六節 公民館

公民館…………… 411

一 公民館の設立 411

二 設立当初の諸活動 412

三 事業内容 414

第八章 社会福祉

社会福祉…………… 417

第一節 生活保護

生活保護…………… 417

一 概説 417

二 明治年代の福祉事業 418

三 方面委員制度と業務 420

第二節 戦後の社会福祉

戦後の社会福祉…………… 423

一 生活保護 424

二 生活保護法の改正と民生委員の活動 425

三 民間団体による福祉事業 426

四 引揚者援護事業 426

五 福祉関係諸団体 429

第三節 児童福祉

児童福祉…………… 430

一 村の児童福祉事業 430

二 村の保育事業 432

三 保育所の経営 433

四 統合保育所の開設 435

五 子供会の育成 436

第四節 老人、母子、身障者福祉

老人、母子、身障者福祉…………… 437

一 老人福祉 437

二 母子福祉 438

三 身体障害(精神薄弱)者福祉 438

第九章 保健衛生……………440

第一節 明治・大正期の保健衛生……………440

一 明治初年の医療機関 440 二 衛生委員の設置（医務取締り） 442

三 村の衛生業務 442

第二節 村営医療機関の設置……………445

一 村立泰阜病院 445 二 村立泰阜医院（泰阜診療所） 446

第三節 国民健康保険……………449

一 泰阜村国民健康保険組合 449

第四節 戦中の保健衛生……………451

一 村の保健衛生業務 451 二 県立泰阜診療所の開設 453

第五節 公営泰阜村国民健康保険組合……………454

一 組合の設立 454 二 組合の事業 455 三 直営診療所の運営 456

四 組合被保険者数および経営状況 457

第六節 国保直営泰阜診療所……………459

一 北診療所の開設 459 二 南診療所の開設 462

三 僻地南診療所 464

第七節 村の保健衛生……………466

一 業務の概要 466 二 業務の実行組織 470 三 保健婦 472

四 保健補導員(保健協力員) 474

第十章 産 業

第一節 産業の概況

- 一 農業の推移 475
- 二 農業構造の変化 476

第二節 農 業

- 一 稲 作 477
- 二 こんにやく 479
- 三 果 樹 481

第三節 養 蚕

- 一 概 説 482
- 二 村の蚕業振興 482
- 三 飼育法と蚕繭の処理 484

第四節 蚕種と製糸

- 一 蚕種製造の適地と振興 485
- 二 蚕種の製造法 486
- 三 製 糸 業 487

第五節 畜 産

- 一 馬 489
- 二 役肉牛 489
- 三 乳 牛 490
- 四 緬 羊 490

- 五 山 羊 491
- 六 豚 491
- 七 鶏 491
- 八 兎 492

第六節 石 灰

- 一 石灰焼 492
- 二 石灰製粉 493

第七節 漁 業

- 一 漁 労 494
- 二 下伊那漁業組合 495

第八節 農会と実行組合……………496

第九節 産業組合(農業協同組合)……………497

一 産業組合設立の経過 497

二 各種産業組合の概要 498

三 泰阜信用販売購買利用組合 500

四 農業会 500

五 泰阜村農業協同組合 501

第十節 農業諸機関……………504

一 勸業社 504

二 勸業委員、泰阜村勸業会 504

三 食糧調整委員会 505

四 農業調整委員会 506

五 農業改良委員会 506

六 農業委員会 507

七 技術員連絡協議会 508

八 農業共済組合 508

九 食糧事務所泰阜出張所 509

第十一節 商工業……………510

一 明治時代の商業 510

二 蚕業振興と商工業 512

三 林産業 513

四 道路交通による商業の発展 514

五 村の商業地 515

六 戦後の農村工業 517

七 泰阜村商工会 517

第十一章 土地……………519

第一節 土地開発……………519

一 井 水 519

二 耕地事業 524

三 水道 528

第二節 土地制度と農地改革……………530

一 土地制度	530
二 農地改革	532
第十二章 森 林	535

第一節 森林の概況	535
-----------	-----

一 村有林	536
二 大南山共有山	538
三 その他共有山	539

第二節 造 林	542
---------	-----

一 初期の造林	543
二 戦後の造林	543
三 育 苗	544

第三節 林 産	544
---------	-----

一 木 炭	545
二 薪	546
三 木 材	546
四 松根油	547

五 椎 茸	548
六 屋 根 板	548

第四節 林 道	549
---------	-----

一 林道開設	549
--------	-----

第五節 森林組合	552
----------	-----

一 泰阜村施業土工森林組合	553
二 泰阜森林組合	553

三 伐出組合	554
--------	-----

第十三章 災 害	555
----------	-----

第一節 主要なる村の災害	555
--------------	-----

一 栃城山林火災(昭和八年)	555
----------------	-----

二 泰阜村合同庁舎火災(昭和二十二年)	555
---------------------	-----

三	昭和二十年十月台風	556
四	昭和二十八年豪雨および冷害	557
五	飯田線落石事故(昭和三十年)	558
六	昭和三十一年四月凍霜害	558
七	台風十五号(伊勢湾台風)(昭和三十四年)	558
八	三六災害(昭和三十六年)	561
九	第二室戸台風(昭和三十六年)	565
十	秋雨前線豪雨と台風十号(昭和四十三年)	566
十一	梅雨前線豪雨(昭和四十五年)	567
十二	梅雨前線豪雨(昭和四十九年)	569
第二節	明治以降の災害年表	570

第十四章 道路交通

第一節	道路	575
-----	----	-----

一	道路変遷の概要	575
二	和田新道(明治十五年)	576
三	竜東線	578
四	竜東線の開設に伴う新道の整備	583
五	千代線	587
六	学校設置に伴う通学路の開設	588
七	農村更生と道路整備	590
八	鉄道開通による道路整備	593
九	村内の県道	596
十	村内幹線車道の開設	598
十一	村内の道路整備	599

第二節	橋	606
-----	---	-----

一	南宮橋	606
二	竜田橋	608
三	櫓橋	609
四	長瀬橋	610

第三節	運輸	611
-----	----	-----

一	通船	611
二	渡船	613
三	貨馬	614
四	運送馬車	615
五	貨物自動車	615
六	乗合自動車	616

第四節 鉄 道……………617

一 伊那谷における鉄道布設 617

二 三信鉄道会社の設立 618

三 鉄道建設 619

四 鉄道開通 622

五 三信鉄道などの国鉄編入 623

六 村内の各駅 624

七 村の駅頭整備事業 628

第十五章 電気通信……………630

第一節 村の電気導入……………630

一 南信電気株式会社による家庭電気 630

二 自家発電による家庭電気 631

第二節 門島発電所の建設……………632

一 発電所建設に至る経緯 632

二 発電計画の変更と村の対応 633

三 発電所の概要 633

四 建設工事 635

五 工事中の村内状況 636

六 ダムによる村の変貌 637

第三節 米川発電所の建設……………637

一 発電所建設の概要 637

二 村の対応 639

第四節 平岡発電所の建設……………639

一 発電所の概要 639

二 村の報償要求 640

三 堰堤建設 641

四 再開に伴う土地問題 642

五 ダムによる村の変貌 644

第五節 郵 便……………645

一 郵便制度の始まり 645

二 地域の郵便取扱い 646

三 村内各局の沿革 649

第六節 通 信…………… 655

一 有線放送電話 655 二 村営有線放送 657 三 農村地域集団電話 660

第十六章 移 民…………… 661

第一節 満州移民…………… 661

一 武装移民 661 二 信濃村建設移民 662 三 満蒙開拓青少年義勇軍 663

第二節 分村移民…………… 666

一 分村移民に至る村内状況 666 二 移民の準備 668 三 入植の経過 669

四 先遣隊員の活動 672 五 本隊の渡満 673

第三節 分村大八浪開拓地の概況…………… 676

一 位 置 676 二 現地情報 677 三 部落構成と土地配分 679

四 分村の行政経済機構 682 五 農業経営 684 六 分村の行事 686

七 秦阜在満国民学校 686 八 在満青年学校 690 九 団員名簿 691

十分村開拓団の壊滅 698 十一 集団の防衛と戦闘参加 701

第四節 戦後の国内開拓…………… 702

一 開拓の概要 702 二 県、村の援助 703 三 開拓地の状況 708

四 その他開拓団の入植者 716

第十七章 文 化…………… 719

第一節 文 芸……………719

一 俳 諧 719 二 和 歌 726 三 垂浪の句碑 732

第二節 絵画彫塑……………732

一 島高層、南岱、南谷 733 二 万場龍水 734 三 中島唐仙 734

四 羽場泰山 734 五 秦 天州 735 六 倉沢桃雨、義雄 735

七 倉沢興世 736

第三節 村の文化財……………736

一 天然記念物 736 二 有形無形文化財 740

第四節 顕 彰……………749

一 吉沢翁頌徳碑 749 二 桜基公園碑 750 三 山田益盛先生頌徳碑 752

四 平 和 殿 755 五 開拓団慰霊碑 755 六 木下徳一翁頌徳碑 756

第五節 文化施設……………758

一 青年研修所 758 二 山村開発センター 758 三 老人憩の家 761

第六節 観 光……………762

一 村の観光地の概要 762 二 天竜舟下り観光 764 三 門島ダム遊覧 768

四 旧南宮峽の景観 769 五 平岡ダムと新南宮峽 773

六 南宮観光協会の事業 775 七 万古溪谷 776

八 天竜峽県立公園特別地域 785 九 天竜奥三河国定公園 785

第六編 雑 載

第一章 民俗芸能……………794

第一節 村の生活……………794

- 一 衣生活 794 二 信 仰 795

第二節 民俗知識……………798

- 一 しつけと占い 798 二 禁 忌 799 三 民間療法 801

第三節 人の一生……………805

- 一 誕 生 805 二 育 成 807 三 婚 姻 808
四 厄 年 810 五 賀 祝 811 六 葬 制 812
七 法 要 814

第四節 芸と遊び……………815

- 一 旅芸人 815 二 子供の遊び 816 三 遊びの歌 819

第二章 歌と俗言……………822

第一節 村の歌……………822

- 一 俚 謡 822 二 樽木踊り唄 823 三 民 謡 841

四歌 詩 845

第二節 村の俗言……………850

- 一 教訓的なもの 850
二 天候の子知 854
三 生業に関するもの 856

第三節 村の方言……………857

第三章 村の地名(字名)……………885

- 一 地形による字名 885
二 農業集落上の字名 887

- 三 信仰による字名 890

第四章 村の年表……………892

あとがき